

地歴公民(政治・経済) 同志社大学 全学部日程 [文系] (2/5実施) 1/2

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

客観式、記述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問3, 解答数64(客観式40、記述式24)で昨年度より1問増えている。教科書に準拠した標準的な問題が多いが、一部で詳細な知識を必要とする問題も出題されている。難易度は、昨年度と概ね変わらない。

出題の特徴や昨年との変更点

I 国際関係分野(国際政治)、II 経済分野、III 国民生活分野という構成になっており、全体的に政治・経済の全範囲からバランスよく出題されている。また日本国憲法の文言を問う問題は、例年通り出題されている。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	客観式 記述式	主権国家体制の変容 と国際法	国連憲章、宇宙条約、国連海洋法条約、国際人権規約、不戦条約など様々な条約についての知識を問う問題であった。【設問10】1.NGOの1つであるオックスファムを知らなくても、その他の選択肢の正誤判断はしやすいので、消去法で対応できる。【設問11】3.多国籍企業の海外進出によって産業の空洞化を招くのは、進出先ではなく、進出元の国であることに気づきたい。なお、【設問7】「国際海洋法条約」という表記については、「国連海洋法条約」というのが一般的である。	標準
II	客観式 記述式	戦後日本経済の歩み	戦後復興期から高度経済成長期、その後の安定成長期からバブル景気とその崩壊までの日本経済の動向に関する理解を問う問題であった。【設問2】(C) エロアと(D) ガリオアの区別を問う問題はやや難しい。【設問8】(a) 2020の日本の最大貿易相手国は、アメリカではなく中国である。また(b) 日本の対外純資産は世界第1位である。【設問10】問題文にある「2021年3月末」は、正しくは「2021年度3月末」のことと思われる。	標準
III	客観式 記述式	日本における雇用と 所得格差	【設問2】(A)で所得再分配によるジニ係数の改善度を求める問題は計算が必要。さらに【設問3】日本の相対的貧困率の定義や現状を問う問題は、やや詳細な知識を必要とする。【設問6】a.「フレキシビリティ」はフレキシキュリティの誤り。c.「ワークフェア」はワークシェアの誤り。注意深く選択肢を読む必要がある。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

近年の同志社大学の問題は、大部分教科書の範囲から出題されている。したがって、まず教科書を徹底的に学習し、その内容を確実に自分のものしておくことが第一だろう。その上で、近年多く出題されている日本国憲法の文言に関する理解を深めておきたい。また、国債残高や合計特殊出生率といった統計数値などを、資料集などを用いて押さえておこう。用語集や参考書の活用も有効だろう。あとは過去問を解くことによって演習力の向上を図ることが大切である。